

第4回 北九州市後期中等教育に関する検討会議【会議要旨】

- 1 開催日時
令和2年8月20日（木）10：30～12：00
- 2 会議形式
オンライン会議
- 3 出席構成員
8名（構成員定数8名）
- 4 議事
(1) 意見のまとめ（案）について
(2) 今後のスケジュール
- 5 会議経過
議事（1）意見のまとめ（案）について

根橋指導企画課長より説明【資料1】

- 座長 ありがとうございました。
 「（1）後期中等教育を取り巻く状況」と「（2）後期中等教育に関する現状」について、ご質問ご意見ございますでしょうか。
- 構成員 「最近の高等学校・大学の状況」については、現在の案に記載されている内容は、1月頃のものである。この間、国の中央教育審議会では、高等学校の普通科改革の議論が急ピッチで進んでいる。それを盛り込んだ方が、意見のまとめの後半部分がより説得力を持つと思う。具体的には、20、30年後の社会は、断片化された個人や組織では描くことができない。多様なセクターが対話として探究をしていくことで、より鮮明に描くことができるということである。それによりその地域の未来が見え、各セクターがどのように人づくりに関わっていったら良いのかが見えてくるという趣旨のことが検討されている。それを踏まえて学校は、この地域の未来のためにどんなミッションを果たしていくのか。それがスクールミッションである。そのミッションを果たしていくために教育課程の柔軟化・弾力化が急ピッチで議論されている。

事務局 スクールミッションについては、我々がどういう人材像を育てなければいけない点にも関係してくるため、文部科学省の中央教育審議会のワーキンググループでの検討状況を踏まえる必要があるとの記載は、あっても良いと思う。

座長 ありがとうございます。
「(3) 後期中等教育に関する基本的な考え方」について、ご質問ご意見ございますでしょうか。

座長 確認ですが、「本来広域地方公共団体が担っている後期中等教育に多額の経費を負担してまで担う必要があるのか」という記載は、どこからの意見なのか。

事務局 第1回会議での費用対効果のお話しや、個別に構成員から聞き取りした内容である。

座長 それに続く「そのため」がどこかの意見を受けた形に見えるが、会議の構成員の意見ということなのか。

事務局 会議構成員の意見である。

構成員 「本来広域地方公共団体が担っている」の記載の仕方が正しいのか。本来という表現は正しいのか。

事務局 法的には、どこが担わないといけないというものはない。記載の表現を見直す。

構成員 少子化等を考えた時に一つの市立高校ことだけでなく、県立や私立考える必要があるとのことで、費用対効果の話をした。

座長 誤解のないような表現に修正したいと思う。

座長 ありがとうございます。
「(4) 今後の両校の方向性」の市立高校について、ご質問ご意見ございますでしょうか。

座長 「学内の人材に関する意見」の一番上の記載は、「学外の資源の活用に関する意見」のカテゴリーに入る。元々の意見では、大人の学び生徒の学びをどう保障していくかを考えた時に、どうしても学外の資源を活用しなければいけないという趣旨であったと思う。

構成員 今回の検討会議では、両校の存続を含めて検討するというところで、両校が意義ある取組や新たな取組が今後、実現できるかということがポイントになる。その時に「市高タイム」で生徒の自主性を重んじながら探究活動を行っていくことが、大きな柱としてあるが、この中身についてももう少し記載がいると思う。

その中身については、地域との関わりを学習上の評価にどれだけ結び付けられるかが難しいところであるが、そこをカリキュラムに組み込んで行けるのかを明示していく必要があると思う。それが地域社会にとって意義があるということが明示されれば、学校は存続させなければならないとなる。

自主的な学習とか資格の取得とか、そういった市立高校としての役割を全面的に示していかないと、存続したとしてもその後の課題として残ってしまう。

あと、「市高タイム」以外の大きな柱があるといいと思う。

構成員 「市高タイム」について、校内のワーキンググループをつくって、何ができるか模索しているところある。また、どのようにカリキュラムに組み込んで行けるかは、現在、議論している。

子どもたちが自分で選択して、自分が伸ばしたい方向を見つけていくものであり、すばらしいものであるが、これが地域とどう関わっていくか、カリキュラムとしてどう組み込むかは、今まさに議論をしているところである。令和4年度から実施の予定としているが、できることは令和3年度から実施をしていきたい。

その他の大きな柱については、先日、探究活動の報告会を実施した。それを進めて行くことと、もう一つは、市立高校の強みは部活であるため、そこをどれくらいアピールしていけるかだと思う。

構成員 部活動はシビックプライドの醸成で非常に重要であるため、その点を追記する必要があると思う。

構成員 高校改革をやっている先生にインタビューをすると、部活動の指導を通して、これが探究的な学びかと気付くことがあるとの話があ

った。探究的な学びを核に据えるのであれば、授業だけでなく、現在、学校の強みである部活動を探究の場とする方向は良いと思う。

構成員 部活動は自分らしく探究していくということで重要である。探究の場は、授業のコマの外だと考えている。探究を部活動の時間で行う生徒もいれば、地域に出て行く生徒もいると思う。生徒が没頭する場面は、時間も場も多様性が高い。多様な場の一つが部活動であるとの整理が良いと思う。

座長 教育課程だけでなく、違った視点の貴重な意見である。
部活動については、教員の働き方改革の問題もあり、どこまで意見のまとめに組み込めるか難しい点もあると思う。
探究をどう捉えて、探究という山にどのような道で登っていくか、その道が多様であることが盛り込めたら良いと思う。

構成員 働き方改革については、学校として持っているリソースがある。地域が持っているリソースがある。一方で制約事項もある。そこで、地域との関係の中で学校が持っているリソースのどれをどこまで提供するかを対話的にコンセンサスを作っていくことが、現在の高校教育改革の議論であるので、今回の議論に組み込むことはできると思う。

座長 ありがとうございます。
「(4) 今後の両校の方向性」の戸畑高等専修学校について、ご質問ご意見ございますでしょうか。

構成員 戸畑高等専修学校は、学校の柱、育てようとしている生徒の柱が明確になっていない。そのため、唐突に費用対効果の話しになっている。この柱がないのであれば、廃止等も致し方ないと思う。
新たな取組や意義あり取組の有無が、判断のメルクマールになっているので、それが無いのであれば廃止等になるかと思う。

事務局 特色については、服飾の学校であるため、服飾産業に人を送り込むのが使命である。一方でその業界が縮小しているため、学校の意義が今あるのかということある。

構成員 産業構造の分析に基づくと、服飾が学校の今後の柱と言えるのか

ということである。今後の学校の柱が何なのかの記載が必要だと思う。今後の柱がないのであれば、それは難しいということある。

事務局 服飾の学校であるため、大きなミシンがあったり、教員も服飾の関係であったりするため、そこから転換することは、別の学校をつくることになってくる。人口が減少をしている状況にあって、そのような検討をすべきかというところがある。

座長 性急に費用対効果の話になると、どこまでが費用で何が効果なのかと難しい話になるので、前回会議で話したスペシャリストなのか底上げなのかの議論を一旦挟む必要がある。この学校が今までやってきたことを否定するのではなく、今後このままで続けられるのかを記載する必要がある。

構成員 戸畑高等専修学校については、定員の充足状況が厳しい現状や、退学率が高いことや、被服の専門学校として役割以外の役割がある話があった。そうすると、学校の当初の設置目的は達していると思う。また、定員を減少したにも関わらず、充足していない状況を考えると、このような結論になると思う。

構成員 結論はそのとおりだと思う。ただ結論に持っていくプロセスがもう少し記載が必要だと思う。

服飾産業自体が無くなっている訳ではなく、今の情報化社会やデザイン重視にフィットする服飾もある。本当はそのような将来展望を検討し、記載すべきだと思う。そしてトータルで結論に持っていくことが必要である。

構成員 市立高校では3つの論点がそれぞれ触れられているが、戸畑高等専修学校については、2点目の論点がぼやけているので、そこを触れることでわかりやすくなると思う。

座長 廃止について賛成・反対の両論併記という記載ではなく、3つの論点のプロセスを沿って色々な意見があったとの記載にする必要がある。

構成員 戸畑高等専修学校は、不登校対策学校ではなく、服飾に特化した学校である。ほとんどの生徒は服飾を目的に来ることは記載してほ

しい。

構成員 中学校から見ても、スペシャリストの養成と同時に社会人としての汎用的な力を学ぶことができると進路指導では言っているところであるので、そのような記載が必要だと思う。

座長 設立当初の趣旨と意義、昭和時代を支えてきた意義、スペシャリストの高学歴化が進んできていること、産業構造の変化がある中でも、被服の分野が完全に不要になったものでなく、新たなニーズや新たな価値があるが、今の現状ではうまくフィットできていないことがあると思う。そのあたりを整理する必要があると思う。

座長 それでは、全体を通して、ご質問ご意見ございますでしょうか。

構成員 北九州市立高校も戸畑高等専修学校が設立した時は、ベビーブームで受け皿をたくさんつくるという時代であった。市内には県立高校や私立高校もあり、これらの学校も少子化の中で苦戦している。そのような状況の中では市立高校だけを考えるのではなく、北九州市の全体最適という見方で進めてほしいと考えている。それがまちの賑わい構築とかまちの中に過疎をつくらないというところに学校の存在感があると思う。

不登校の対策についても、その対策に予算を大事に使うという視点で費用対効果と述べさせてもらった。あくまでも少子化の中で北九州市内の学校が繁栄していくことを考えた時の市立学校の位置付けが大事である。

将来人口を考えると財政の面も大事であるため、教育委員会で議論する時には考慮してほしい。

構成員 今回は市立高校が1校あって、そこをどうするかが出発点であったが、より大局的に見て北九州市の持続可能性を考えた時は、県立高校の数と市立高校の数のブレンド比はどれくらいが妥当なのかは、検討する必要があると思う。

座長 教育セクターだけでなく、県との関係や教育委員会の所掌範囲だけでなく市全体のセクターまで含めて市立高校の在り方を考えるべきとのご意見でした。

構成員 市立高校と市立大学の関係であるが、具体的には市立高校の生徒が推薦で何人か市立大学に入学できるようなことがあればいいと思う。

構成員 大学全体的話しであるため、この場では何とも言えないところであるが、大学と交渉をしてみてもどうかと思う。

1点確認であるが、本検討会議のミッションとしては県立高校が視野に入っているのか。視野に入っているのであれば、高校の統廃合はあっているのか、そこらへんは書き込めるのか。

事務局 その点については、市と県の関係で調整していくことと考えている。この会議では市立高校について議論頂きたいと考えているところであるが、一方で少子化や高校の定員等は射程に入れて考えなければいけない話しであるので、教育委員会で検討する際は、しっかりと考える必要があると考えている。

座長 この検討会議のミッションが何なのかを考えた時に、市が後期中等教育学校を有している意義と、今後の産業構造、社会の変化を考えた時に教育内容の特色化をどのように見直すべきか。そして、その変化に2校は耐えうるのかという話であった。この点については、色々な立場、角度から意見が出たと思う。財政的な問題もあるので一つにまとめられるものではないと思う。先日、市立高校に訪問した際は、まずは校舎の老朽化をなんとかしてあげたいとの印象も持った。

今後、教育委員会で検討してもらう中で難しい議論になると思うが、材料としては、整理できたと思う。

座長 皆様、ご意見ありがとうございました。

それでは、本日の意見を踏まえ、「意見のまとめ」を修正した上で取りまとめていきたいと思う。最終修正については、座長に一任いただきたいと思う。その点も踏まえて、最後に言っておきたいご意見があればお願いします。

座長 ありがとうございます。それでは本日のご意見を踏まえて修正して最終的にとりまとめたいと思います。

本会議については、昨年度の1月から開始し、本日、意見のまとめに至りましたが、全4回の会議等とおした感想などを教育長か

らいただきたいと思う。

教育長

元兼座長、本当に4回に渡りましていろいろとご指導いただきまして誠にありがとうございました。また、構成員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、お時間を取っていただき心よりお礼申し上げます。

当会議の立上げはビフォーコロナの時でありましたが、当会議の間、残念ながら、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染を受け、対面による会議は第1回会議のみでありました。対面するとアイコンタクトでシンパシーを感じることもありますので、できましたら、対面による会議を実施したかったところではありますが、ほぼリモートによる会議となりました。ただし、その中でも皆さまから貴重なご意見を頂くことができ最終回を迎えることができました。

この新型コロナウイルスについては、会議が開けないマイナスの面もありますが、教育界については激震が走りました。義務教育ではギガスクール構想として一人一台のタブレット端末が今年度中に配備され、一気にIT教育が進みました。また、本市の後期中等教育の在り方を考える上でも、大きな影響があったと思います。会議の意見にもありましたが「子どもが学校に入る入口の段階と卒業する出口の段階では大きく社会状況が変わっている状況となり得る中では、汎用的な力を身に付け、変化の激しい時代に対応していける人材の育成」が今後、更に必要になってくると考えています。AIの人工知能は、問い自ら立てて、探究することは不得手と言われていますが、この探究する力を子どもたちに身に付けることが、本当に大事であると実感しております。

市の教育委員会においては、教育セクターに特化した考え方をしてしまいがちではありますが、大局的な視点を踏まえるべきとの指摘を踏まえて、これからの検討の中に盛り込んでいきたいと考えています。

また、会議においても、学びの柱は何なのかとの問いがありました。大学や私立の学校では、よく建学の精神と言われていました。この2校については建学の精神に立ち戻って、地域にどれだけ貢献できているか。また、20年、30年先について、その精神を活かすことができるのかという観点でも再度検討してまいります。

皆様方におかれましては、今後とも、本市教育行政につきまして、格別のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後となりましたが、連日、厳しい暑さが続いております。

皆様方には、ご自愛のうえ、ますますのご活躍を祈念いたしまして、お礼のご挨拶といたします。

座長 ありがとうございます。

それでは、事務局には、本日の意見を踏まえ、検討を進めていただきたいと思えます。

今後のスケジュールにつきまして、事務局より説明をお願いいたします。

(2) 今後のスケジュール

根橋指導企画課長より説明【資料2】

座長 ありがとうございます。

ただ今の事務局からの今後のスケジュールにつきまして、何かご意見ございますでしょうか。

座長 では、よろしいでしょうか。

それでは本日の議事は以上といたしまして、進行を事務局にお返しいたします。

事務局 長時間にわたり、誠にありがとうございました。

本日のご意見を踏まえ、本会議の意見のまとめを取りまとめてまいります。もし、本日のご発言で訂正等をしたい内容があれば、事前に事務局までご連絡ください。

なお、本日の議事録及び意見のまとめの完成版につきましては、元兼座長にご確認を頂いた後に公開をさせていただきます。

また、構成員の皆様には意見のまとめの完成版を電子メールもしくは郵送で送付をさせていただきます。

それでは、これをもちまして、「第4回北九州市後期中等教育に関する検討会議」を閉会いたします。これまでありがとうございました。